

調査研究
会派 (研修) 結果報告書
要請・陳情活動

令和 5 年 2 月 27 日

会 派 名 広友会
代表者氏名 上田 廣

場 所	高松琴平電気鉄道株式会社 香川県高松市栗林町2丁目19番20号 神山町役場 徳島県名西郡神山町神領字本野間100
期 間	令和 4 年 10 月 6 日 ~ 令和 4 年 10 月 7 日
経 費	44,414 円
参加者氏名	上田 廣
目 的	<p>1、高松琴平電気鉄道株式会社 公共交通利用促進条例制定と政策前進の関係、公共交通が支える持続可能なまちづくりについて、地域密着の起業の取組を学び、本市の公共交通政策に役立てる。</p> <p>2、神山町役場</p> <ul style="list-style-type: none"> ①来春開校「まるごと高専」で目指す地域づくり ②光ケーブル敷設で IT 企業を誘致「サテライトオフィス」の取組 ③新しい公共交通のかたち「地域のくるま」について <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">神山町役場</p> <p style="text-align: center;">会議の様子 (神山町役場内)</p>

1, 高松琴平電気鉄道株式会社
 •「コンパクト・プラス・ネットワーク」
 鉄道を基軸としたバス路線の再編により、持続可能な公共交通ネットワークを再構築し、集約されたまちを公共交通で繋ぐ。
 高松モデルとして既存ストックと ICカードを活用し、ハード・ソフト両面からの施策により一定のサービス水準を維持しながら、持続性の高い公共交通に変えつつ、需要に合わせた供給の最適化を行う。

・ことでん新駅整備事業について

新駅「伏石駅」(※R3.11 グランドオープン)は主要都市と連絡する高速バスのアクセスにより、広域都市間輸送交通の結節拠点となる駅。

また、国道を生かし高松市の東西を広域に結ぶバスや、市の中心部と居住エリアを結ぶ循環系バスの結節拠点としての機能を担う。



内 容

(視察先の現状、東広島市との比較、要請・陳情等)

・公共交通利用促進施策「高齢者に対する公共交通利用支援」

新 I r u C a カード「ゴールド I r u C a 」を活用し、市内に在住する 70 歳以上の方を対象とし、 I r u C a が導入されている電車、路線バス、コミュニティバス等の運賃を半額にする事業を展開している

【販売枚数】 28,480 枚 (R4.3 末現在)

⇒ 70 歳以上人口 94,827 人 (R4.4.1 現在) 保有率 約 30 %

・公共交通利用促進施策「電車・バスの乗継割引拡大」

[H26.3.1 から制度開始]

ICカード「 I r u C a 」による電車 ⇄ バス利用時における乗り継ぎ割引額 (20 円) ⇒ 100 円に拡大、電車とバスの効率的なネットワーク形成し公共交通の利用を促進

初期費用 (システム改修費等) + 運賃割引額の差額 ⇒ 市が補助金として補填



	<p>2 神山町役場</p> <p>①神山まるごと高専</p> <p>開港予定日：2023年4月1日</p> <p>学科名：デザイン・エンジニアリング 学科</p> <p>学生数：40人×5学年=200人</p> <p>教員数：21人（非常講師除く）、</p> <p>就学スタイル：全寮制</p>  <p style="text-align: center;">建設中の高専</p> <p>高専で学ぶことは、テクノロジー（ソフトウェアやAIに関するテクノロジー教育）やデザイン（UI・UXやアートに関するデザイン教育）や起業家精神（リーダーシップ等の起業家精神）で、建学の精神としてまるごと学ぶ学校とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の豊かな未来を創造するための必要な力 ・授業のみならず、課外活動や寮生活などの機会 ・成功も失敗も糧とし、すべての経験から 「まるごと」学習することとしている。 <p>②サテライトオフィス</p> <p>2010年10月にサテライトオフィス第1号として東京に本社があるITベンチャー企業がオフィスを開き、全国報道等もありサテライトオフィスという制度が全国に広まった。その後、ワークライフバランスやBCP対策として多くの企業が進出し、地域に雇用を生んだり、子どもたちが多様な大人、職場と出会うことで選択肢の幅が広がった。また空き家の有効利用にも貢献している。</p>  <p style="text-align: center;">神山 STAY&WORK</p> <p>③新しい公共交通のかたち「地域のくるま」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背景として名西山分線は徳島のドル箱と言われてきたが、人口の減少、マイカーの普及などの社会情勢の変化によって乗客の減少が続いた、そうした中で昭和46年に徳島バスの北谷線と大中尾線が廃止され、その対策として町営による代替バスが運行されたのが町営バスの始まりである。しかし町営バスの利用人数は昭和47年度には6万人を超えていたものの令和3年度には3,733人となっており、令和2年度の収入と収支の差額はマイナス2千万円を超えていている。現状としてバスの利用率（0.29人/便）と低く、毎年2千万円を超える赤字、さらに人口減少に比例して今後も利用者は減っていることを鑑み、町営バスを廃止し、新しい公共交通手段を考え直す時期に来ている
--	---

内 容 (視察先の現状、東広島市との比較、要請・陳情等)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等タクシー利用助成事業（のらんでサービス） 70歳以上、2,000円を上限に半額程度助成、年間60回まで、年間700万円 ・神山町が実現したいこととして <ol style="list-style-type: none"> 1、利用者の利便性向上（＝困っている人の支援） 2、公共交通手段の確保（＝タクシー会社の経営成立） 3、財政支出の維持と費用対効果の向上 4、事務の効率化（⇒デジタル改革の推進）
効果・成果等	<p>1、高松琴平電気鉄道株式会社 高松市と琴平電鉄との取り組みは、地域公共交通の強化・推進に向けて積極的に行われていると感じた。</p> <p>2 神山町役場 大塹地の集合住宅はライフステージに応じた変化に対応できるよう建設されており先進的だと感じた</p>